

だいふく



地域福祉を推進する大分県社協 2013.7・8
大分社会福祉 No.172

<http://www.oitakensyakyo.jp/>

大分駅前でたくさんの人と触れあったよ。
見かけたら、気軽に声をかけてね〜♪



ギネス記録証書
が県社協に!!



今年1月にハウステンボスで開催された「ゆるキャラ」134体によるダンスにより、ギネス記録を達成しました。

特集

だいふくプラン 大分県社協第三次中長期活動計画

- どうして?なぜなぜ?「だいふくん」4.5
- 平成24年度事業報告(概要)6
- 平成25年度事業の基本方針7
- 大分県市町村社協災害時相互応援協定8
- 赤い羽根共同募金9
- 地域福祉コーディネーター養成研修会10
- ゆうあいスポーツ大会結果11
- 大分県ボランティア・NPO推進大会案内11
- 善意銀行預託者12
- 今月のイチオシ!12
- きずな名鑑紹介12

Twitter

やってます。
ぜひ登録をお願いします。

facebook



この機関誌は、共同募金の配分を受け
て発行しています。

大分社会福祉

だいふく No.172

発行/平成25年7・8月

発行・編集/社会福祉法人 大分県社会福祉協議会

〒870-0907 大分市大津町2-1-41 TEL (097)558-0300 FAX (097)558-1635

Eメール info@oitakensyakyo.jp

善意銀行預託者【1~4月】

- 日本舞踊 藤華流 藤華 澄智代(帆玉 澄子)
- (株)太田旗店
- 池邊 廣司
- 八鹿酒造(株)
- 河野 千代子
- (株)三洋アルミ
- 全九州電力労働組合
- 大分県就労支援事業所協議会
- (株)オーイーシー
- 南九州ビバレッジサービス株式会社
- 後藤 悦子
- 河野 潔
- (財)大分県文化振興財団
- 兼子厚子
- 大分フットボールクラブ (敬称略)

いつも
ありがとうございます



いただいた金銭・物品は、社会福祉施設や各種社会福祉活動に活用し、また、指定があった事業等に活用しています。ご協力ありがとうございました。

今月の
イチオシ!

「クルミケーキ & コーヒー」

ぴいたあパンでは生産活動としてパン事業、喫茶事業、BDF精製事業、コーヒー焙煎事業を行っています。

パン事業は1日約1500個を販売し、コーヒーも1日20kgの豆を販売しています。

最近ではクルミケーキとコーヒーのセットを1カ月500個以上全国発送しており、今後も新商品の取り組みを行っていきたいです。



お問い合わせご注文は **ぴいたあパン**

〒877-0061 大分県日田市大字石井1501-4
TEL (0973)23-5584 FAX (0973)23-5898
E-mail: qqyb9vq79@themis.ocn.ne.jp

ぴいたあパンショップ
<http://peterpan.shop-pro.jp/>

きずな名鑑

〔大分県老人福祉施設総覧〕

販売価格 **2,500円**
(会員価格2,000円)

限定2,000冊



大分県社会福祉協議会では、県内の社会福祉施設の便覧を発売しています。

介護が必要になったとき、あわてて施設や事業所をお探しではないですか。「きずな名鑑」があれば、事前に施設の特徴をご確認いただけます。

特別養護老人ホームから、有料老人ホーム等、300施設の詳細データ、所在地地図、また介護保険事業所(訪問介護等)約5,000事業所の一覧、相談窓口一覧などを掲載しています。



県内の施設情報
充実!!

お申し込み・お問い合わせは、
【企画情報課】
097-558-0300
まで

大分県社協の使命

地域福祉の推進

(福祉のまちづくり、生活支援、福祉人材の育成)

基本理念

「安心・安全で尊厳ある自立した暮らしの実現」
強い絆で結ばれた地域社会の構築

キャッチフレーズ

あなたといっしょに 地域の暮らし応援団

7つの重点テーマ

1 高齢者・障がい者・子どもとその家族の安心・安全を目指して

2 社会的孤立の解消を目指して

3 権利擁護システムの確立

4 災害に強い地域づくり

5 福祉ゾーン機能の充実・確立

6 情報発信力の強化

7 財政基盤の確立

施策27

1. 地域包括ケアシステムの円滑な推進
2. 地域包括支援センターの機能性の更なる向上と連携
3. 高齢者の生きがいづくり
4. 認知症高齢者と家族への支援
5. 障がい者施設・団体への支援
6. 障がい者の地域生活支援
7. 子ども・障がい児とその家族への支援

8. 地域の実情にあった小地域福祉活動の推進
9. 生活困窮者(経済的困窮者、様々な生きづらさを抱える人、人とのつながりが希薄な人など)への支援
10. ひきこもりやニート、一人暮らし高齢者、一人親家族への支援
11. 関係団体・機関との協働と支援

12. 市町村の法人後見の仕組みづくり及び市民後見人の養成、拡充
13. 関係機関との連携及び広報・啓発
14. 虐待の防止
15. 障がい者の権利擁護
16. 権利擁護に関わる人材の育成

17. 災害時要援護者をまもる地域コミュニティの構築
18. 市町村災害ボランティアセンターの円滑な運営のための体制整備
19. 情報収集・発信体制の整備
20. 小さな地域単位での避難体制の組織化
21. 災害時、県災害ボランティアセンター(県社協)が機能するための環境整備

22. 蓄積された福祉のノウハウを国内外に発信します(ウェルフェアツーリズム事業による東アジアとの連携)
23. 障がい者の心とからだの「ハビリ」拠点を整備します(障害者総合支援法に基づく新たな総合福祉センターづくりを目指します)

24. 徹底した現場主義に基づいて、地域と一緒になった社協活動を展開
25. 「だいふく」を活用した、グッズ・書籍の作成・販売、普及、イベントプロデュース
26. 広報誌やホームページ、フェイスブック等による関係機関や地域福祉活動団体の取り組みの紹介

27. 「経営基盤強化・発展計画2012」の着実な推進

施策の方向性

協働・連携団体

1. 地域包括・総合相談・在宅介護支援センター協議会、社会福祉士会、県地域包括ケア研究会、市町村社協、社会福祉施設、医師会、民生委員、地域住民
2. 地域包括・総合相談・在宅介護支援センター協議会、市町村社協、地域福祉推進委員会、社会福祉施設、医師会、病院協会、看護協会
3. 市町村社協、ボランティア、健康推進員、老人クラブ、地域包括支援センター
4. 市町村社協、認知症の人と家族の会、ボランティア、行政、医師会
5. 各種別協議会、社会福祉施設、障がい者団体、済生会、ボランティア団体、NPO、市町村社協
6. 社会福祉施設、障がい者団体、ボランティア団体、市町村社協、行政、障害者権利擁護センター
7. 児童相談所、主任児童委員、子育て支援センター、児童館、市町村社協、保育所、社会福祉施設、手をつなぐ育成会、ボランティア

8. 市町村社協、民生委員児童委員協議会、ボランティア、自治委員会連合会、福祉委員、学校、地域包括・総合相談・在宅介護支援センター協議会、介護支援専門員協会、ホームヘルパー協議会、看護協会、医療ソーシャルワーカー協会、社会福祉士会、医師会、地区社協、老人クラブ、サロン
9. 地域福祉推進委員会、大分大学、地域包括・総合相談・在宅介護支援センター協議会、市町村社協、社会福祉施設、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、サロン、婦人会、自治会、地区社協、ボランティア、NPO、コープおおいた
10. 市町村社協、コープおおいた、民生委員児童委員協議会、里親会、児童養護施設協議会、老人クラブ、ボランティア、医師会、弁護士会、認知症の人と家族の会、NPO、在宅介護支援センター、ハローワーク
11. 市町村社協、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、サロン、ボランティア団体、大分県青少年自立支援センター、大分いのちの電話、NPO、行政

12. 市町村社協、弁護士会、社会福祉士会、司法書士会、NPO、社会福祉施設、市町村、裁判所、司法書士会
13. 市町村社協、裁判所、金融機関、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、法テラス、医師会、行政(市町村、県)
14. 県行政、市町村、市町村社協、社会福祉施設、NPO、社会福祉士会、民生委員児童委員協議会
15. 市町村社協、社会福祉施設
16. 市町村社協、社会福祉施設、NPO

17. 旅館・ホテル、社会福祉施設、市町村社協、市町村行政、民生委員、盲人協会、聴覚障害者協会、コープおおいた
18. 市町村社協、ボランティアネットワーク、防災士会、民生委員児童委員協議会、NPO、防災士会、行政、日赤、消防団、建設業組合、商工会、青年会議所、コープおおいた
19. 市町村社協、社会福祉施設、九州社会福祉協議会連合会、全国社会福祉協議会、行政
20. 市町村社協、ボランティア、自治委員会連合会、民生委員児童委員協議会、行政
21. 県行政

22. 老人福祉施設、大分大学、APU 立命館アジア太平洋大学、日本文理大学、別府大学、大分県立看護科学大学
23. 県行政

24. 市町村社協、社会福祉施設等
25. 市町村社協、社会福祉施設、就労支援事業所協議会等
26. 市町村社協、社会福祉施設、民生委員児童委員協議会、ボランティア、NPO等

基盤

ボランティア意識の向上

関係機関との連携

(市町村社協、社会福祉施設、民生委員児童委員協議会等)



どうして? なぜなぜ? 『だいふくし』?



今回のどうして? なぜなぜ? 『だいふくし』は、「だいふくプラン2013(大分県社協第三次中長期活動計画)」についてです。県社協が今後5年間(平成25年度～平成29年度)の中長期活動計画を策定したことについて、だいふくんとよもじいがお話をしています。聞き耳を立ててみましょうか?

よもじい だいふくん



「県社協は、どうしてだいふくプラン2013を策定したん?」

「県社協は、5年に1回、中長期の活動計画を策定しよるんじや。」

「私たちは、5年間で地域の課題解決のために、この方向で活動しますよ。」ということを通じて福祉関係者や多くの県民の皆さんに広く知ってもらうことが目的なんじやよ。」

「そつなんやーそれは大事な計画やな。じゃ、中身について教えてよ。」

「そつじやの。まず、基本理念については、地域の絆を構築することを活動の柱に据えておるな。」

東日本大震災以来、地域の絆の重要性をみんな、再認識するようになった。その絆を構築していこうというわけじやな。」

認められるようになったってニュースで言っていたよ。そのこと。」

「だいふくん、良く知っておつたな。」

「感心、感心! その成年後見による支援が必要な認知症高齢者や知的や精神に障がいのある方を個人ではなく、**法人という組織で支援**しようという活動も**重点テーマの3**で盛り込まれておるな。自分らしく生きたい。」

それは、誰の願いでもあるな。わしも、自分らしく生きたいもんじやな。」

「じいちゃんは、いつも自分らしく生きていそつやけど...」

「だいふくん、何か言ったかの?」

「何も言っていないよ。へえ、そつなんやな。でも県社協は、他にも災害時には**災害ボランティアセンター**の設置、運営支援を行っているんよな。そついつ活動もやっていくんよな。」

「そつなんじや、それが**重点テーマの4**にあげられておるな。県社協は、災害が起きても安

心な地域づくりを目指しておる。」

大分県では、**南海トラフ地震や別府湾での地震の発生確率が高く、津波による浸水被害等が心配**されているから、重要な取り組みと言えるな。」

「他にも、平成27年に完成予定の県立美術館との連携による活動にも取り組むことが**重点テーマ5**で書かれているよつじや。」

「いろんな活動計画の内容を聞いてきたけど、これから僕たちだいふくんファミリーも活動のお手伝いできることって無いかな?」

「うん、そうじやな。我が家ができるのは、我がファミリーで、**県社協や地域の課題の情報発信**のお手伝いすることじやな。いろんなグッズの作製も予定されておるようじやし。だいふくんの形をしたリュックやぬいぐるみの企画もあるようじやぞ。」

「えっそつなんだ。どんなグッズができるか楽しみやな。」

「そつやな。そのような情報発信を通して、県社協の活動が多くの方々にもっと見えるようになり、関心をもってもらえると良いな。」

「じゃ、次に、重点テーマについて、は、つあがっているけどどういったことが書かれちよんの?」

「うん。重点テーマ7つとも、今の地域の課題を県社協が、いろんな専門家を交えた会議のなかで整理されたものになっておるんじや。特に策定委員長の大分大学大学院の**衣笠先生**には大変お世話になったそつじやよ。さて、今の地域の課題をあげてみると、今後も**介護が必要な高齢者や認知症の高齢者等がますます増えていくこと**が予想されておる。」

また、地域には高齢者だけでなく、障がい者や子育て中の親など、支援を求めている方がたくさんおる。**重点テーマの1**には、そのような方々を県社協としてどういう方法で支援できるのかということが書かれておるんじやよ。」

「ふうん。でもまだ他にも支援を必要としている人は他にも多くいるんじやないん。」

「そつなんじやよ。今は、アペノミクス効果で一部の企業では、収益が改善されておるようじやが、まだまだ地方の一地方が書かれておるんじやよ。」

それが、**重点テーマの6**で書かれておる。」

「そして、最後に忘れてはいけないうのが、**県社協の活動資金**をいかに確保するのか、これについても**重点テーマの7**番目で書かれておるな。」

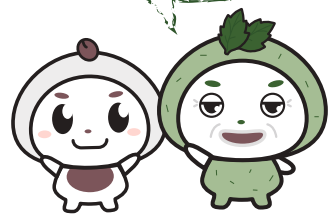
県社協も地域福祉活動財源の確保に苦慮しておるようじや。」

「そつなんだ。お金が無いと、福祉活動もできないもんね。」

「そつじやな。そのために、県社協もきずな名鑑やあまざけ、クレパス、スケッチブック等の販売にも力を入れておるようじや。」

「じいちゃん。今日はたくさん教えてくれてありがとう。また、何か分からないことがあったら教えてね。」

「あぁ、いいとも。また、教えてあげるよもじい。」(笑)



県内の施設情報が充実!

ぬいものがついてとってもかわいいよ♪



平成24年度 事業報告 (概要)

近年における家族形態の変容や地域での支えあい意識の低下など、人間関係の希薄化を背景とした児童・高齢者への虐待、高齢者等の孤立、孤独死などの問題が山積しているなか、住民主体による地域福祉活動を積極的に推進し、誰もが地域で安心して暮らせるまちづくりのための事業を重点的に取り組みました。

また、「日常生活自立支援事業」や「苦情解決事業」の積極的な推進を図るとともに生活困窮者に対する相談援助として、生活福祉資金貸付事業等のセーフティネットの各種制度を利用した生活支援の強化を図りました。

さらに、第2次総合福祉計画の最終年にあたり、各実施計画の総括を行うとともに、第3次中长期活動計画の策定を行い、あわせて引き続き経営基盤強化に向けた財源確保に取り組み、地域福祉推進のための各事業を積極的に行いました。

① 住民主体による 地域福祉活動の展開

地域に暮らす人たちが支え合い、助け合いながら、きめ細かな活動を展開することが重要であることから、地区社協の設置を推進するとともに、地域の特性を活かした小地域福祉活動への個別支援や地域福祉活動コーディネーターの育成、社協職員の研修強化に取り組みました。

また、ボランティア・市民活動の活性化を図るため、センター機能の充実に努め、福祉教育の充実や減災に向けた地域力の強化を積極的に図りました。

② 福祉サービス利用者の 利益保護の推進

福祉サービス利用者の保護のための「日常生活自立支援事業」を充実強化するため、地域のニーズが本事業の利用につながるよう広報・啓発や関係職員の資質向上等の一層の推進を図りました。

また、成年後見の専門機関等とのネットワークを構築し、関係機関相互との連携を強化し、相談支援体制の充実を図りました。

さらに、福祉サービス利用に関する苦情解決事業の啓発や福祉サービス第三者評価の受審促進、福祉サービス利用者の権利擁護に努めました。

③ 県民主体の サービスの提供

「生活福祉資金貸付制度」の有効活用を図るため、相談窓口である市町村社協や民生委員・児童委員や関係機関への制度周知を行うとともに研修の強化を図りました。

また、長期滞納世帯への償還面接指導を実施し、適正な債権管理を行いました。

さらに、指定管理施設である「大分県社会福祉介護研修センター」並びに「大分県身体障害者福祉センター」の各種教室や研修の充実に努めました。

④ 良質な福祉サービスが 提供されるための支援

福祉人材センターにおいては、「福祉・介護人材マッチング支援事業」を通して、求職者の職場開拓と魅力ある福祉・介護職場のための指導・助言を行い、新規就労と職場定着を支援しました。

また、社会福祉法人新会計基準策定の対応など、社会福祉法人の経営支援を推進するため、「社会福祉経営指導事業」の周知活用を推進しました。さらに、各種別協議会との連携を強化し、法人運営上に必要な研修を企画・実施しました。

⑤ 新たな課題に対する 連携・協働の強化、推進

地域における様々な課題への対応として、小地域見守りネットワークを構築し、関係機関等と連携・協働を図りました。また、福祉における支援に止まらず、各地域における見守りネットワークの中で、医療、保健サービス等との連携を強化し、インフォーマルサービスの普及促進を図りました。

⑥ 法人の体制強化

県社協第二次総合福祉計画の後期活動計画のもと、さらなる地域福祉推進に向けた組織体制構築に取り組みました。また、第三次中长期活動計画の策定に取り組みました。

平成25年度 事業の 基本方針

近年における家族形態の変容や地域での支えあい意識の低下など、人間関係の希薄化を背景とした児童・高齢者への虐待、高齢者等の孤立、孤独死などの問題に加え、さらには経済の低迷等による失業や生活に不安を抱える家族の増大など、福祉を取り巻く環境は依然として深刻な状況が続いています。

① だいいくプラン2013の 取り組みと「だいいくん」を 活用した情報発信

県社協では第三次中长期活動計画「だいいくプラン2013」を策定し、基本理念として「強い絆で結ばれた地域社会の構築」を念頭に置き、住民主体による地域福祉活動の推進、福祉サービス利用者の権利擁護、県民への良質な福

祉サービスを提供するための支援、福祉サービスを支える担い手の養成・確保等について引き続き取り組んでいくとともに、新たな取り組みとして、本会のキャラクターである「だいいくん」を活用した情報発信や地域福祉財源の確保等の取り組みについて組織的な取り組みを実践します。

また、経営基盤強化・発展計画による積極的な財政再建を行うとともに、人材育成基本方針のもと、職場内研修や福祉施設現場研修の実施などの適正な人事管理を行います。

② ボランティア・市民活動の 積極的な推進

東日本大震災による被災者支援を引き続き行い、ボランティア・市民活動を積極的に推進し、活動の拠点施設としてのセンター等の設置について積極的に働きかけるとともに各種研修や養成講座を開催し、地域課題に取り組む人材育成を図ります。

③ 日常生活自立支援事業の さらなる充実と 生活困窮者への支援

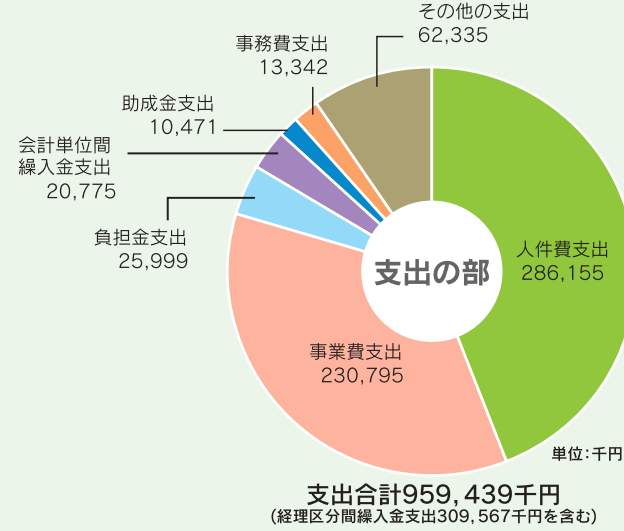
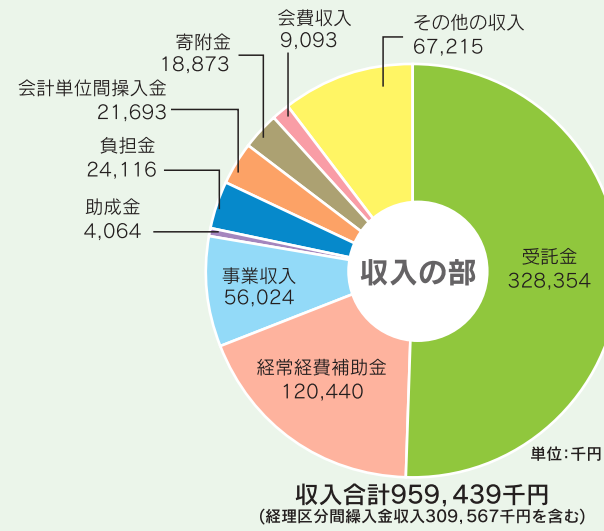
権利擁護システムの確立を図るため、認知症高齢者や障がい者等が地域で安心して生活する権利を守る日常生活

活自立支援事業のさらなる充実を図るとともに、事業関係職員の資質向上や相談支援体制の充実・強化を行います。

長引く不況の影響により、雇用情勢も厳しい状況が続く中、低所得者や失業による生活困窮者への支援を行うため、生活福祉資金貸付制度の周知徹底を行い、あわせて民生委員・児童委員等との連携のもと貸付事業の円滑な運営に取り組みます。

④ 指定管理施設 各種事業の充実

指定管理施設である「大分県社会福祉介護研修センター」及び「大分県身体障害者福祉センター」の各種事業の充実に取り組み、センター利用者へのサービスの向上に努めます。また、社会環境の変化により新たな福祉課題として、子育て支援や児童虐待、自殺問題等について、関係機関との連携のもと実態を把握し、未然防止に向けた取り組みを強化していきます。



平成24年度 一般会計収支決算状況概要



詳しい事業内容などについては、本会のホームページをご覧ください。

大分県市町村社会福祉協議会

災害時相互応援協定を調印

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くのかけがえのない人命を失い、また、多くの住宅や都市・産業基盤が破壊され、地域社会は壊滅的な被害を受けました。

本県でも、昨年7月に発生した豪雨災害では、河川の大規模氾濫等による家屋の浸水や損壊、広範囲な断水、JR豊肥線や各所橋梁の流失等、広域にわたり地域住民を脅かす甚大な被害が発生しました。

今後、想定される自然災害に対して、これまでの教訓や災害現場での支援実績の蓄積をもとに、県市町村に設置されている社会福祉協議会のネットワークを活かし、発災時の迅速な初動対応や支援体制の確立を図ることを目的に本協定を締結しました。

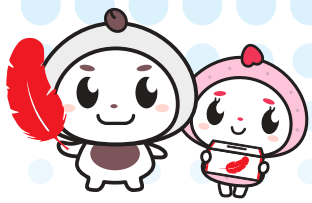
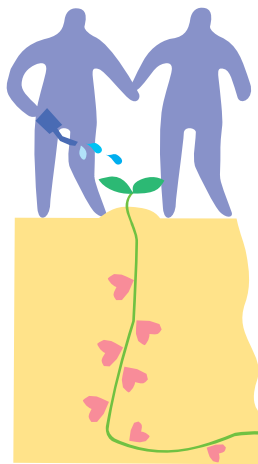
11日となりました。忘れてはならない日として、この日から各市町村社会福祉協議会を県社協職員が訪問し、協定に調印をいただきました。

これまで社会福祉協議会は、地域福祉を推進する組織として「災害ボランティアセンター」を立ち上げ、被災地でのボランティア活動の支援、また、被災世帯に対する「生活福祉資金特例貸付（緊急小口資金）」を行うなど、被災地の住民生活の復旧・復興を支援してきました。

しかしながら、被災地の社協では、災害で混乱するなか緊急対応に追われ、ボランティア等の受入れや地域住民への計画的な支援活動を行う体制が十分整えられない状況が生じています。このため、県内さらには全国の社会福祉協議会関係者による広域的な緊急支援が必要となります。これまでも被災地社

協に対し、適宜、支援スタッフ派遣等による応援を行ってきましたが、迅速かつ円滑に応援を実施するための体制づくりが課題となっていました。

今後は、協定書に盛り込まれていない具体的なことについて、大分県社会福祉協議会地域福祉推進委員会地域防災研究部会で協議していきます。



「赤い羽根自販機」の設置協力者募集

大分県共同募金会では、飲料販売業者と協力し、飲み物を購入すると、その売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される自動販売機募金「赤い羽根自販機」の設置を推進しています。身近な地域福祉活動を応援する取組みとして、社会福祉協議会、公共施設、病院、企業などで設置にご協力をいただいています。

赤い羽根自販機で企業の地域貢献を実施

鶴崎海陸運輸(株)では、従来から共同募金運動にご協力いただいていたが、今回、新たな地域貢献活動として、赤い羽根自販機を設置されました。担当の方は「これまでも企業として募金をしていましたが、この自販機は、飲料を買うだけで、購入者一人一人が募金できます。身近な地域への社会貢献活動の一つとして、当社は協力していきたい。」と話していただきました。



※自販機前面には企業名等を記載
自販機イメージ図



設置すると「地域社会への貢献」につながる「赤い羽根自販機」って何?!

「赤い羽根自販機」とは、飲み物を購入すると、その売上の一部が販売業者等を通じて赤い羽根共同募金に寄付される赤い羽根のロゴの付いた自販機で、その寄付金は、地域の福祉活動に役立てられます。この自販機の設置により設置者、購入者、地域社会それぞれにメリットがありますので、新規設置や設置先の紹介などにご協力をお願いします。

設置者

- ① 飲料の売上げに応じて、販売業者から設置者へ販売手数料が支払われます。
- ② 売り上げの一部が販売業者を通じて寄付され、この寄付は、税法上の優遇措置を受けることができます。
- ③ 販売手数料(設置者の収入)・寄付額は、各社で異なります。
- ④ 設置企業等が地域福祉活動に貢献していることから企業のイメージアップにつながります。
- ⑤ 自販機は無償貸与、自販機の管理や商品の補充、故障時の対応、空き容器の回収、釣銭の管理などは販売業者が行いますが、電気代(月平均3,000円程度)は、設置者負担となります。飲料水を購入するだけで手軽に募金に協力でき、身近な地域の福祉活動に貢献できます。

購入者

赤い羽根自販機の協賛販売業者

- NPO法人ハートフル福祉募金 …… アサヒ飲料、大塚バレージ他
- 株式会社シーアール …… アサヒカルピス、キリンビバレッジ他
- 南九州ビバレッジサービス株式会社 …… コカ・コーラ、アサヒ飲料他
- 株式会社伊藤園 …… 伊藤園の商品
- サントリービバレッジサービス株式会社 …… ペプシ・コーラ、サントリー商品
- 南九州コカ・コーラボトリング株式会社 …… コカ・コーラ、アクエリアス、ジョージア、爽健美茶

※ご希望業者へは、大分県共同募金会から連絡します。業者が設置者を訪問し、具体的な打合わせを行います。

ご協力いただいた設置例

設置していただきますと本会ホームページに掲載し、県民の皆さんにお知らせしています。
<「大分県共同募金会」で検索>平成25年6月末現在、県下での設置台数は27台です(敬称略)。

大分県立病院、県総合社会福祉会館、トキハわさだタウン、大分空港3F、鶴崎海陸運輸、九重観光サービス、津久見市社協、竹田市社協、玖珠町社協、国東市社協、JFおおいた武蔵支店、県立美術館建設現場・鹿島・梅林建設、新日鐵住金・らいざん堂、梅林建設(株)、大銀ドーム・(株)大宣、別府市役所1Fホール、豊後高田市立図書館、JR別府駅、宇佐よろうち・いのちき、(社福)清浄園、大久保病院、(社福)豊友会、(社福)庄内厚生館、丸紅(株)

お問い合わせ先…大分県共同募金会 TEL:097-552-2371



大分市社協会長と県社協
会長が、まず3月11日に
調印をスタート!!



第33回大分県ゆうあいスポーツ大会記録一覧 2013.5.12

競技種目	団体名	選手名	記録	受賞名	備考
400M	男子	緑の家	高倉 修	1分00秒36	TOSテレビ大分賞
	女子	糸口学園	江藤 咲月	1分42秒86	NHK大分放送局賞
ソフトボール投げ	男子	ナザレトの家	原口 明男	66m35cm	朝日新聞社賞
	女子	暁雲福祉会	阿南 泉	22m40cm	朝日新聞社賞
走り幅跳び	男子	糸口通勤寮	川野 宏一	3m72cm	大分県障がい者体育協会会長賞
	女子	さつき園小島	大崎 瑠奈	2m66cm	大分県障がい者体育協会会長賞
立ち幅跳び	男子	ややま園	有松 浩道	2m31cm	大分県障がい者体育協会会長賞
	女子	ほろんの郷四日市	小坪 千明	2m14cm	大分県障がい者体育協会会長賞 新記録
1500M	男子	さつき園中江	吉田 里美	5分32秒64	大分県社会福祉協議会会長賞
	女子	ほろんの郷四日市	小坪 千明	7分29秒31	OBS大分放送賞
800M	男子	糸口学園	田中 栄人	2分33秒20	大分県手をつなぐ育成会理事長賞
	女子	糸口学園	岡部 一輝	11秒97	西日本新聞社賞
100M	男子	ナザレトの家	市吉 優希	14秒96	西日本新聞社賞
	女子	ナザレトの家	市吉 優希	14秒96	西日本新聞社賞
フライングディスク	5M	小松寮	甲斐 尊久	10投	エフエム大分賞
	7M	アップルミント	岩田 隆弘	9投	OAB大分朝日放送賞
400Mリレー	児童	糸口学園A	花木 宏美 田中 栄人 佐藤 和美 岡部 一輝 市吉 優希	58秒87	大会会長賞
	成人	ナザレトの家	田口 翔一 宮川 秀美 伊東 進一郎	58秒37	大会会長賞



第33回 大分県ゆうあいスポーツ大会

5月12日、大分スポーツ公園内大分銀行ドームにおいて、「第33回大分県ゆうあいスポーツ大会」が開催されました。

大会当日は、選手の日頃の頑張りが通じたのか、晴天に恵まれすぎるくらいの気候で、入場行進の段階から、選手みなさんの額には汗が光っていました。

今年も開会式には、大分中学校・大分高等学校吹奏楽部総勢70名のみなさんに演奏していただきました。また、昼休みには糸口太鼓による迫力あるパフォーマンスが披露され、観客席からは大きな拍手が送られていました。

今大会の立ち幅跳びで、大会新記録を出した小坪千明さん(ほろんの郷四日市)。次回に向けての意気込みを語ってくれました。

今回、立ち幅跳びに出場し、大会新記録で優勝出来てとてもうれしいです。これからもっと練習をして、強くなりたいです。来年は4mを超えたいです。

強くなるためにもう少しコツを早く覚えて、オリンピックに行きたいと思います。

ほろんの郷四日市 小坪千明



さらなるスキルアップをめざして

地域福祉コーディネーター養成研修会開催



ワールドカフェ方式とは……

話し合いたいテーマを設定し、そのテーマについて自由にカフェでリラックサして話すかのように、メンバーの組み合わせを変えながらアイデアを出し合い、あたかも参加者全員で意見交換をしているような効果が得られる集団で話し合うためのひとつの手法

この研修会は、参加者の主体性を尊重しながら、次の研修内容を参加者が企画する参加型研修となっていて、4班に分けて、次の企画をそれぞれが分担して決めます。

第1クールは講義を聞くだけでなく、自分自身の振り返り作業、グループワーク、ワークショップ(ワールドカフェ方式)での対話、絵を描く作業もあり、「何十年ぶりに絵を描いた」と嘆いていた参加者もいましたが、皆さん熱心に議論されていました。

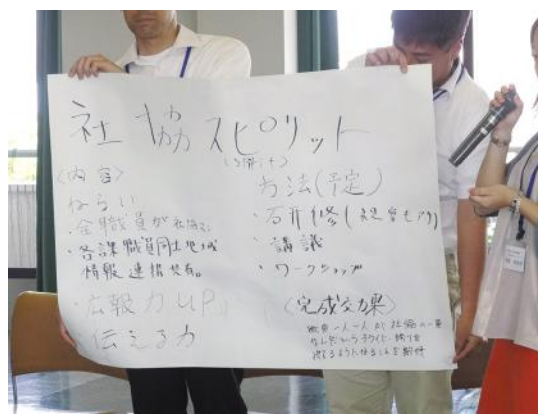
平成25年5月23日(木)～24日(金)に、首都大学東京の准教授である室田信一さんを講師に招き、「平成25年度地域福祉コーディネーター養成研修会」の第1クールを開催しました。

この研修は、市町村社会福祉協議会で地域福祉活動の中心的担い手である職員を対象に、地域における深刻な生活課題の発見や個別支援の方法、そして地域ネットワーク構築の技法など、より実践的な学習を行いながら、地域福祉コーディネーターとして活動できる人材を養成するため、1年(10日間)かけて開催します。

参加者の感想

- とにかく面白かった。また、こんなに自分にスポットを当ててくれることは初めてで、自分を再発見できた。
- 自分を見直すには、体力が必要だった。
- ベテランさんの企画力の凄さを実感した。
- 一つのお題でも、いろいろな考え方が出てきておもしろかった。
- 自分に「つながり意識」が少なかったことがわかり、これを機会に、それを高めて支援の中に落としていきたい。
- 市町村を越えて交流もでき、みなさんの良い面も見られ、1年でいろいろ吸収したい。
- 同じ志を持つ人が揃い、一つの目標に向かってやっているのが心強い。

これから続く研修をとおして、参加者同士のネットワークが構築され、福祉業界の基盤強化、後輩の育成、リーダーシップが発揮できるような人材の育成をめざします。



いっしょに参加しませんか!

第10回 大分県ボランティア・NPO推進大会

「支えあう 絆でつむぐ 明るい未来」

けんしやきよう

インフォメーション



とき 平成25年8月31日(土) 10:00～
ところ 大分文化会館 大ホール

10:30 【基調講演】……「ありがとうの贈り物～きっとつながる心のバトン」
講師：(社)なごみの里 代表 柴田 久美子 氏(看取り士)

13:10 【活動事例発表】 県内のボランティアやNPO団体、学生、企業などから、地域でのボランティア活動等について発表していただきます。
コーディネーター：mottoひょうご 事務局長 栗木 剛 氏

大会開催中、ロビーなどでパネル展、物品販売、PRコーナーなどを行っています。ぜひご覧下さい!

参加申込 参加無料で、どなたでも参加できます。ご希望の方は事務局あてにお申込みください。昼食(弁当)が必要な場合は、申込時に伝えてください。(お茶付き税込500円)駐車場が限られていますので、公共交通機関でお越しください。

事務局 TEL：097-558-3373・FAX：097-558-1296・大分県ボランティア・市民活動センター